

# 瑞医

世界に羽ばたくMEDIPORT  
2008 VOL.5

contents

極 研究&教育  
Current topics in research and education

人 時の人  
People in the news

技 最新医療の紹介  
Latest developments on the medical front

## 心よりのお詫びとお願い—この難局を乗り越えて

平成20年1月17日  
医学研究科長 郡 健二郎

平成19年12月5日、本医学研究科前教授が、学位審査にまつわる収賄容疑で逮捕され、同26日起訴されました。皆さまに多大なるご心配とご迷惑をおかけいたしましたことを深くお詫び申し上げます。この痛恨の事件を教訓に、医学研究科としては学位審査のみならず、あらゆる角度から自らを虚心に見つめ直し、損なった社会からの信頼を取り戻すべく、一丸となって出直す所存でございます。

「医療界の常識は社会の非常識」との声にも、私たちは謙虚に耳を傾けなければなりません。私たち、そしてわが国の医学・医療界が社会から乖離した考え方や行動に陥っていた一面を、変えていかねばと思っています。本学は、市民に支えられ、市民に貢献すべき使命を担っていることを改めて認識し、医学・医療界の変革を促す発信地になるのだとの思いであります。

この事件により、私たちが懸念する下記のような問題があり、早急に対処すべきと考えています。

一つは、長年の努力の末、十二分の実力を備え、厳しい審査ののちに学位を取得した人たちへの評価が不当にも下がる恐れがあることです。社会からそうした誤解を招くことだけは、何としても避けねばなりません。

二つ目は、真理を探究することの尊さが、大学から失われかねないことです。新臨床研修制度が始まって以来、研究をする大学院生が全国的に激減しています。この事件を契機に、この上医学研究に励む者の意欲が削がれることのないように努めねばと強く思っています。

三つ目は、先輩後輩の良き人間関係が薄れる心配です。これまでの研究の多くは、本学の将来を背負って立つ准教授や講師などの情熱ある指導で成り立ってきました。そこにあるのは、後輩を思いやる心温かい指導者の熱意と先輩への感謝の気持ちです。この良き人間関係は、臨床においても同様に見られ、本学の発展の基盤となってきました。この伝統がこれからも引き継がれ、後進を育成していくことが本学のさらなる発展には肝要だと思えます。

この事件をもって、これまで地道に築かれてきた本医学研究科の実績と伝統は揺るぐものではありません。医学研究科としては、教育・研究・臨床に、より一層真摯に努めてまいります。今後とも皆様からの温かいご指導とご鞭撻を賜りますよう謹んでお願い申し上げます。

皆様のご協力のもと、この難局を乗り越え、心傷める日々が1日も早く良い方向に転換するよう努めてまいります。



## 名古屋市立大学と「連携・協力の推進に関する基本協定書」を締結しました!

平成19年12月5日、名古屋市立大学と名古屋工業大学は、研究・教育・国際交流・産学連携など、大学におけるあらゆる分野において連携・協力を推進し、わが国及び世界の学術の発展と有為な人材の育成に寄与することを目的として、「連携・協力の推進に関する基本協定書」を締結しました。両大学では、平成13年3月に「単位互換に関する協定書」を締結し、教育の充実及び相互交流に努めてきましたが、今回の基本協定書の締結により、工学系の単科大学である名古屋工業大学と医・薬・看護など6学部を持つ総合大学の本学が相互に補完しあうことにより、共同研究の推進、施設等の相互利用、国際交流事業・産学連携事業の共同実施など、研究・教育活動等の一層の充実と質の向上を図ることが期待されます。医学部・医学研究科でも、今後の共同研究等の可能性を探るとともに、具体化に向け協議を進めています。今後の進展にご期待ください!



両大学では、協定締結を期に、相互に教員を派遣し、「連携セミナー」を開催。

- A 12月5日協定調印式の模様
- B 12/5医学部教員による「健やかに生きる～現代医療の最新動向」の様子
- C 1/30「医工学連携に関するセミナー」
- D 名工大の教授をお招きして開催しました。

名古屋市立大学	名古屋工業大学
市民の健康と福祉の向上に貢献する	「ひとつり」「ものづくり」「未来づくり」
学長 西野 仁雄 創立1950年、6学部、大学院7研究科、学生数3846名(平成19年5月1日現在)	学長 松井 行信 創立1905年、学部(第一部)7学科、(第二部)4学科、大学院6専攻、学生数6273名(平成19年5月1日現在)

## “瑞医の由来”

「瑞医(ずいい)」という言葉は、瑞穂で育った医師が心の支えとなる名市大、「瑞」にはめでたいことという意味があるので新しい門出の広報誌に考えました。サブタイトルの「MEDIPORT」は、「Medical」と「Port(港・空港)」をかけた造語。名市大を最新情報を発信する拠点とし、卒業生が社会・世界へ出発し、またいつでも戻ってこられる港であるようにとの願いをこめています。

## 研究者紹介



**村上 浩士** (むらかみ ひろし) 細胞生化学(第2生化) 准教授  
 専門:分子生物学(テーマ:真核生物の細胞周期制御機構)

細胞増殖過程のM期、G1期、S期、G2期という細胞周期の順序を決定する機構を、酵母を用いて研究を展開している。細胞周期の研究を進展させ、癌化のメカニズムを解明していくことから医学に貢献したいと考えている。

近年の論文:EMBO J. 92(7):132-42(2008)、PNAS.104(37):14688-93(2007)、PNAS.102(16):5797-801(2005)

**山口 裕史** (やまぐち ゆうじ) 加齢・環境皮膚科学(皮膚科学) 准教授  
 専門:皮膚科学(テーマ:部位特異的皮膚再生、創傷治癒、紫外線と皮膚癌、色素異常症)



手のひら・足のうらには毛がなく、それ以外には頭部を中心に毛があるように、なぜヒト皮膚に場所による違いがあるかを研究し、皮膚再生医療への臨床応用を目指している。名市大が得意とする光線治療に関連し、紫外線の皮膚に及ぼす影響も解析中。

近年の論文:J Biol Chem.282:27575-61(2007)、FASEB J. 20:1486-8(2006)、J Cell Biol.165:275-85(2004)

## 関連病院

### 知多半島の医療を支える病院! 愛知県厚生連 知多厚生病院

Q 病院の特色・誇り等をご紹介ください

【公的医療機関の使命を果たし、世界健康半島を実現する】



写真1

知多厚生病院(写真1)は、知多半島南部に位置し、地域の拠点病院として急性期から慢性期まで総合的な医療を提供しています。また、当院は医療法に基づく公的医療機関であり、災害拠点病院、第二種感染症指定病院、臨床研修指定病院、へき地医療拠点病院など様々なバ

ブリック・ミッションを果たしています。さらに、医師会、行政、保健所、およびJAあいち知多などと緊密な連携のもと、保健・医療・福祉(介護)を統合した『世界健康半島』の実現に向けて努力してまいります。平成21年5月には、

新しい外来診療棟(写真2)が完成し、知多南部医療センターとして地域医療の発展に貢献できるものと確信しています。



写真2

【全職員で取り組む臨床研修】

全職種代表が参加する臨床研修委員会を中心として学外実習、初期臨床研修、後期臨床研修に病院全職員が一同となって取り組んでいます。また、初期臨床研修では、当院篠島診療所での一ヶ月間の離島研修を取り入れています。さらに、時間外救急患者は年間10,100人、救急車搬送患者数は年間1,400人でプライマリケアは十分に経験できます。海の幸が豊かな地域ですが、体重が増えて研修を終えた研修医はいません。地域における真の医療を学びたい人は、是非学外実習や病院見学に来て下さい。

(病院長 宮本忠壽)

## 学部教育

### 緊急特集! 医学教育改革その2—教養教育改革にも取り組んでいます!

名古屋市立大学では全学的な教養教育の見直しに取り組むことになりました。教養教育の見直しが必要になった経緯について、大学全体が抱えている問題点と医学部の抱えている問題点について教養教育検討委員会委員の 島田昌一教授にご説明頂きました。

#### ■なぜ全学体制の教養教育の見直しを行う必要があるのか?

文部科学省の指導で1990年代の中頃に全国の大学で教養部が無くなり、名古屋市立大学でも旧教養部所属の教員は学部や研究科に所属することになりました。その後の教養教育は旧教養部に所属していた教員が中心になって行ってきましたが、その教員が順次定年を迎え、教養教育を担当できる教員数が減少し続けています。現在では専任教員以外に、教養教育の授業の約半数を非常勤講師で補い、また多くの語学の授業を外国人教師(任期5年)が担当し、各学部も3科目ずつテーマ科目を担当しています。それでも教養教育の授業のやり繰りが難しくなってきました。この様な状況から、教養教育の見直しを行う必要が生じました。名市大では平成20年度より、全学部の代表委員よりなる教養教育推進機構や教養教育実施委員会を新たに発足させ、教養教育の改革と運営を全学的に取り組む予定です。

#### ■医学部における教養教育の問題点は?

科学の発展により大学で学ぶべき内容は増加傾向にあります。逆にゆとり教育の影響で高校までの履修内容は減少しました。また、高校教育の未履修問題が話題になりましたが、最近入学してくる学生の化学、生物、物理の知識レベルが科目ごとに大きな不均衡を生じています。一方、教養教育の期間は2年から1年間に短縮され、教養教育にかかる絶対的な時間数が以前の40%と大幅に減少しました。この様な背景から、既に1~2年生の段階で真面目に勉強しているにもかかわらず教養理系科目や基礎医学科目の学習内容を理解するのに困難を要する学生が少しずつ増加してきました。この実情をふまえますと医学を学ぶために必要最低限の基礎知識を身につけるための準備教育を1年生の教養教育の段階で導入することを検討すべき時期になりました。

名市大の教養教育科目は今後、共通教養科目(全学部が同じ単位数を共通に履修する科目)と系別教養科目(各学部が必要とする科目)に分類される予定です。特に系別教養科目の内容は各学部の意向を取り入れることになっております。昨年9月29日~30日に開催された第5回医学教育フォーラムでは医学部の教養教育の問題点や今後の方向性について盛んな議論が重ねられ、多くの先生方から貴重なご意見を伺いました。



機能組織学

島田 昌一 教授



### OB 訪問



水谷 孝文 氏

昭和31年名市大卒業。結核の人を助けたいという気持ちで医師を志す。卒業時には結核の治療法が確立され始めたことを実感し、精神科を選択した。八事病院を木造30床で開業、現在は会長。

### 初代同窓会長も務めた時のヒト

Q: 大学に期待することは?

「振り返ると、同窓会立上げ時から茨の道でした、現在の大学の発展は嬉しい」と話す。何かを実行するには財力が必要であることを痛感した経験、また人に恵まれたことを非常に喜んでいること、等を語った。「真の長期的ビジョンを見据えながら、名市大の特色を出した発展を考えてきたこと、またこれからはぜひそうしてほしい」と語る目の奥には、冷静で将来を見据えた眼光があった。

(インタビューア: 飛田秀樹)



片岡 博喜 氏

愛知県衛生部に勤務した後、名市大医学部入学。平成2年卒業、市大での研修の後、平成4年4月より愛知県衛生部に勤務。平成18年4月より愛知県健康福祉部健康担当局医務国保課長。

### 県の医療行政で奮闘中のヒト!

Q: お仕事の内容は?

県の医務国保課は、県民の保健医療福祉の向上を目指し、幅広い施策を所管しています。最大の課題は、病院の勤務医不足です。医師の担当課長として、医師会や病院協力など関係団体との情報交換や種々の調整に取り組み、また議会対策や県の医師確保対策事業の予算獲得にも、全力を挙げています。しかし、即効性のある効果的な手段が乏しく、皆さんの期待に十分応えきれず、各方面から厳しい批判を一身に浴びています。

### 実験病態病理学 臨床検査技師 小木曾 正さん

平成19年度医学教育等関係業務功労者表彰(文部科学大臣表彰)を受賞!



Q この賞は長年の医学教育への功労が顕著な方に贈られるものですが、普段のお仕事について教えてください。

A 病院で亡くなられた方の病理解剖助および、実験動物での病理解剖の補助をし、それぞれの顕微鏡標本の作製です。

Q お仕事をされる上で、最も大事にされていることは?

A きれいな標本を作製することです。

Q 最後にあらためて受賞の感想を!

A このような賞をいただき、たいへん身に余る光栄と思っています。私が受賞できたのも、歴代の教授を始めとし、教員、研究員の皆様が優秀な学会発表および論文掲載が数多くされたことにより私の業務が認められたものと思い、皆様に感謝しています。今後とも更に技術の推進に努力していく所存です。

優れた研究、学生教育の影に小木曾さんあり!  
益々のご活躍を期待しております!

### 名古屋市立大学病院 看護部長 脇田 恵美子さん

“共に輝くために”  
(人とキーワードを繋ぐ職場)



「医師が輝いていれば、看護師も輝く事ができる」その控えぬ「前向きな輝きを」今日も感謝の気持ちを持って振り返る事ができる。ある時は「医療職の約70%を占める看護師を取りまとめる看護部長」として。またある時は「病院長補佐」として病院の全体を支える脇田氏に会えた。「市大病院を受診して良かったと思っただけのようにありがたい」そんな使い古された言葉も、大きな人だからこそ、そこに真実と深みがある。外来や病棟での「チーム医療」において「患者様の生活のサポートと診療の補佐」を使命としながら、笑顔を絶やさぬその看護師の献身的な姿は眩しく映り心洗われるものだ。昨今の激動の医療・看護を取り巻く厳しい環境の中で、遂に新病院がフルオープンとなった。たとえそこにどんな混乱があろうとも、ぶれない軸があればこそ「展望を持って働くこと」ができる。今、疲弊する勤務医も「看護師の輝きがあればこそ輝きを取り戻し保ち続けることができる」だろう。幸いなことに、「我々の仕事は多くのありがとうとおめでとうがございますに支えられている」。今ここにいることを心から誇りに思い、胸を張り白衣のボタンを留めて今日もそこへ向かう。“共に輝くために”

(インタビューア: 尾崎康彦)

### 今年も盛り上がりました!—川澄祭

「医心伝心」をテーマに掲げた第48回川澄祭が2007年11月9~11日にかけて行われました。今回の川澄祭では今後医療に携わる私たちの企画に、近隣の保育園の子供達の演舞や、商店街の方々の出店など、例年にも増して地域の皆様に力強い御協力をいただきました。模擬病院では、来場された方々に最先端医療の一つである腹腔鏡下内視鏡手術や胃カメラのシミュレーターを実際に体験していただく新たな企画も取り組みも行いました。また、医療の分野だけではなく、環境問題に対するシンポジウムなども開催されました。1年近くもかけて一生懸命準備してきた甲斐もあり、非常に盛り上がり、思い出に残る3日間となりました。ご協力いただいた全ての方々に感謝を込めて厚く御礼申し上げます。

(川澄祭 実行委員長 M4 早川 俊輔)



毎年大人気、模擬病院



天気が心配されましたが沢山の方にご来場いただきました。



4年生を中心とした実行委員会が頑張りました



左より 樋口技師 荻野病院准教授  
馬場助教 村田講師 福岡技師

### 影を読み光を操る匠の技（放射線治療最前線）

「名市大病院中央診療棟地下には沢山の最先端医療のお宝が眠っているらしい。」

既に医療関係者だけでなく世間の人達がそう噂している。そして多くの患者様と二桁に及ぶ後期研修医が名市大放射線科に殺到している。そこに何かあるのか？その魅力は一体何か？答えを求めこの取材に胸ときめかせた。「お宝は眠ってはいません。闘っています。」肺定位照射（SRT）では7方向からの放射線で敵を攻撃するという。「それでは7レンジャーみたいなものですね？」との切り出しに、つぶらな瞳がメガネの奥で優しく輝くと、荻野氏は自信満々に地下室の扉を開け、ゆっくりと招き入れた。

（取材 尾崎康彦）

#### Q.肺定位照射とは？

コンピュータの発達による精密な治療計画と患者固定精度の向上により、放射線を多方向から病巣に集中して照射することが可能となり、従来放射線単独での治療が困難であった早期肺癌を4回の照射のみで治療することを可能とした技術です。リンパ節や他部位への転移のない方が対象となります。麻酔などは不要で外来で1回30分程度で治療が可能です。当院では4年前から取り組み、これまでに約120名の方に施行していますが、重篤な有害事象はなく手術と同等の生存率を得ています。

#### Q.当院における特徴は？

多くの施設が3cm以下の病変を対象にしていますが、当院では5cm程度の比較的大きな腫瘍まで対象にしています。現在までのところ、5cm程度の腫瘍であっても放射線照射部位の局所制御率は3cm以下のものと変わりません。これは大きな病変をコントロールするために放射線生物学で得られた知見を応用して腫瘍サイズに応じて照射線量を変化させる方法を採用しているために関連学会でも非常に注目されています。そのため県内外の基幹病院からの紹介も多数あります。

#### Q.躍進する放射線科の魅力とは？

当科は画像診断と放射線治療の2つの分野からなっていますが、いずれの分野もさまざまな技術革新をもっとも早く臨床に応用できる分野であるため最先端医療を牽引してゆくことができると考えています。今後も治療分野では粒子線治療やさらなる高精度治療の開発、診断分野では当院にアジアで初導入された2管球CTの応用や3テスラMRIによる微細構築の描出など今後の発展が期待される領域が目白押し状態です。これらの技術を応用して患者さんに負担が少なく効率のよい診断を行い、最新画像を使って病巣をピンポイントで治療することを目指しています。

## 『病院機能評価を受審しました』—中間報告

病院では、去る12月12～14日の3日間「日本医療機能評価機構」による「病院機能評価ver.5.0」の審査を受けました。

病院機能評価とは、病院が提供する医療サービスの質の向上を目指して、第三者機関による評価を受審するもので、審査項目は、「病院組織の運営と地域における役割」を始め7分野、約600項目にものびります。

病院機能評価の受審することの効果として、(1) 職員の自覚と意欲の一層の向上が図れるとともに、経営の効率化が推進される、(2) 院内ルール・規定がマニュアル化され、業務の標準化、品質の確保が図れる、(3) 病院が自らの位置づけを客観的に把握でき、改善すべき目標が具体的、現実的なものになる、ということが挙げられます。

受審1日目には、7人のサーベイヤー（審査官）による書類審査がされたのに続き、2～3日目は病院長の病院概要説明に始まり、合同面接調査、領域毎の面接調査、さらには各部門及び各病棟に対する部署訪問を受けました。

各サーベイヤーの厳しい質問に対して、職員各々が様々な場面で病院の特徴を笑顔で積極的にアピールするなどして、職員全員が一丸となってハードな3日間を何とか乗り切ることができました。

今後3月頃に審査最終結果報告を受ける予定になっています。

## ひとこと☆メッセージ募集!

本誌では、皆様からの一言メッセージを募集します!ご無沙汰している同級生に、恩師に…ワイワイ楽しいお便りお待ちしております。ほっと和む「名市大人のつぶやきコーナー」をみなさんと作りたいと思います。

例えばこんな一言を、

- ◆ 研究者紹介に載った同期・先輩へ。「おまえも、がんばってるみたいやん。」
  - ◆ ごぶさたしている同窓生への近況を。「最近、腹が出てきました。」
  - ◆ 新米医師のつぶやき、女性医師必見!ウチの家事両立法!「ここが手抜きポイント!」などなど、必要事項を記入の上、葉書かe-mailで下記までお送りください。(注:次回掲載は6月号です)
1. 一言メッセージ (30字以内) 2. 卒業年度 3. お名前 (ふりがな) ※匿名希望またはペンネームでの掲載をご希望の場合はその旨をお書きください。\*4. 住所 5. 電話番号またはmailアドレス

《受付》〒467-8601 名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1 E-mail: igakujimu@sec.nagoya-cu.ac.jp  
名古屋市立大学医学部広報誌「一言メッセージ」係宛

\*お送りいただいた個人情報については、お便りの採用に関する応募者への問い合わせ、確認以外の目的で使用いたしません\*

広報誌：瑞医（ずいい）

発行：名古屋市立大学大学院医学研究科・医学部  
〒467-8601 名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1  
TEL (052) 853-8077 FAX (052) 842-0863

URL <http://www.nagoya-cu.ac.jp>

※次号の発行は平成20年6月下旬発行予定です。[年3回 2月・6月・10月]

☒  
我こそは  
通信員!

広報誌「瑞医」へ最新の話題をお届けして下さるサポーター大募集!「今、当講座ではこんな若手が頑張っています!」など広報委員会へ取り上げてほしい話題を教えてください。教職員・学生、身分は問いません。我こそは、という方は、igakujimu@sec.nagoya-cu.ac.jp または医学部事務室 佐々木まで